



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

令和3年1月18日発行

編集・発行者 中林 暉幸

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直 方



結氷半ばのくじゅう御池

目		次	
1 コロナ禍の中の支部活動	…… (1)	⑥ 里山低山クラブ・宇土大岳縦走 (前田節子)	…… (14)
2 誌上登山教室: (2)安全登山の道具 (土井 理)	…(2)	⑦ キャンプ同好会:くじゅう黒岳 (中村 寛)	… (15)
3 中期(2020年8月~12月)活動報告	…… (8)	⑧ 秋の登山教室・雲仙普賢岳 (池田清志)	……(16)
① 里山低山クラブ・菊池観音岳 (戸上貴雄)	…… (8)	⑨ 里山低山クラブ・芦北鶴掛山 (戸上貴雄)	……(19)
② 里山低山クラブ・吉無田官山 (坂本雄二)	…… (9)	⑩ トレーニング同好会・俵山 (山本 直)	……(19)
③ 日陰を求めて・南外輪ハイキング (安場敏郎)	… (10)	⑪ トレーニング・釈迦院、⑫里山・砥用鎌倉山手蝶山	……(20)
④ 花を愛でる会・くじゅう蓼原湿原 (城戸邦晴)	… (11)	4 寄稿・個人山行 ①表銀座:常念・蝶ヶ岳縦走 (坂本雄二)	…(22)
⑤ 秋の森林保全巡視登山・三の岳 (田北芳博)	… (12)	②傾山・祖母山縦走 (中村 寛)	……(26)

1 コロナ禍の中の支部活動 (支部長)中林暉幸

昨年初めからの新型コロナウイルスの感染は消長を繰り返しながらも一向に収まる様子はなく、1年を経たいま、全世界に拡大し、その影響は計り知れないものがあります。その渦中であって、2020年(令和2年)度の支部活動もほとんどの活動が中止に追い込まれ、同好会活動など辛うじて近場の山を楽しむだけになりました。今回の支部報の支部活動報告も近隣の山のみになり、少し淋しいものになっています。当分収まる気配が見えない中、支部活動もしばらくはこのような活動形態を続けざるを得ないと思われまます。コロナ禍が早々に収束して、心おきなく元のような活動ができるようになることを願いつつ、新年のご挨拶にかえさせていただきます。

2 誌上登山教室 (副支部長) 土井 理

国際認定山岳医でもある熊本支部副支部長の土井理先生による誌上登山教室、今回は第6回目です。厳しい環境そして変化も著しい山の環境に対応するための道具は重要な要素です。昨今登山の道具類は隔世の感がありますが、状況に応じて必要な装備とその使用法を身につけておく必要があります。そのポイントを論じていただきます。

(2) 安全登山の道具 (12回シリーズ: 今回⑨~⑫)

- | | |
|------------|----------|
| ① 登山靴 | ⑦ 救急医療用品 |
| ② 登山時の服装 | ⑧ 応急処置 |
| ③ ザック | ⑨ ピッケル |
| ④ テント | ⑩ アイゼン |
| ⑤ ハイドレーション | ⑪ ストック |
| ⑥ 救急用品 | ⑫ グローブ |

(2) 安全な登山のための山用具

⑨ ピッケル

今回はピッケルの話です。ピッケルは、雪や凍った雪、氷った山を登る為の冬山登山には必須の道具です。ストックは夏山でも使用している方はたくさんおられる様ですが、足元が滑りやすい冬山にも、是非必要な道具です。ピッケルの語源は、ドイツ語のアイスピッケル、英語のアイスアックスに由来します、日本では一般的に使用するものをピッケルと呼び、氷壁を登るのに特化したものをアックスと呼ぶことが多い様に思います。



石突き・ストレートピッケル



石突き・曲がったピッケル

ピッケル：は、シャフトの上部に尖った部分の**ピック**、平たい部分の**ブレード**、シャフトの下の部分の尖った部分を**シュピッツエ** (石突き) と呼びます。

ピック：は、急斜面を登る時、雪や氷に刺して、ピッケルを支点にして登って行きます。

ブレード：は、本来は凍った雪や氷にステップを作る為の道具なのですが、前回に記載したアイゼンに前爪が着いたものが登場す

ピック

ると使われる機会が極端に少なくなっている様に思います。しかし現在でも多くのピッケルにブレードが着けてあります。

シュピッツエ（石突き）：は雪や氷の山を登る時に、落ちない様にしっかりと雪面に刺して登ります。

ピッケルの長さ：は、昔は、身長から 100cm を引いた長さ、ピッケルを手に下げた時に足のクルブシ辺りに石突きの部分が来る長さが適当とされていました。現在では長さの調節できる軽量なストックが出現し多く使用される様になり、全く違った選択方法が中心です。ピッケルを雪に刺して使用するのは本来急斜面です。緩斜面での杖としての役割はピッケルではなくストックを使用します。この為に、身長・100cm と云った比較的長い、重いピッケルは必要ありません。もしも雪面を滑落した時には、ピックを雪面に刺して停止するのですが、ピッケルが長くなるとピックを雪面に刺すまでの回転半径が長くなり、ピックを刺すまでに時間がかかり、滑り出しからの時間経過も長くなり、滑落停止が難しくなります。短ければ短い程、滑落停止しやすくなることとなります。現在は 50cm－60cm のピッケルが主流です。現在、冬山で杖として使用するのはストックで、ピッケルは**登攀道具**と言う事になります。

ピッケルのカーブ：は、**ストレートなピッケル**と、**緩やかに曲がったピッケル**があります。

ストレートピッケルは、石突きの部分を使うことが多い場合、かつての杖としての用途が多い場合のピッケルです。ですからストレートピッケルは比較的長い物が多く有ります。

曲がったピッケルは、ピックの部分が多く使用することが多い場合、ピックを打ち込みやすい角度に作られたピッケルです。ですから比較的短いピッケルが多く有ります。

持ち方：ピッケルを斜面に刺して登山する為、原則は山側の手に持つこととなります。ピッケルはピックとブレードの中心のシャフト上部を持って登山します。しかし、冬山で金属をずっと持ち続けていると手の指の凍傷の危険性もあり、左右に持ち替える必要があります。斜面や手の冷たさを考慮して持ち替えます。アイゼンも同様ですが、ピッケルを落とすと、登山も下山もできなくなる事があります。この為初心者では、ピッケルバンドと言われるベルトを付けて登山する方も多く居ます。このピッケルバンドは必ず、容易に左右に持ち替えられるベルトでなければなりません。ですが、もしもピッケルバンドを付けて、手放し滑落した場合は、人がピッケルより重く先に落ちる為、自分にピッケルが落ちて来ることを忘れてはいけません。登攀に両手が必要でピッケルを離さなければならない時には、背中に背負うアルペン刺し、あるいは腰のピッケルホルダー・カラビナに通して登攀します。長いピッケルはこの様な時は非常に扱い難くなります。ストレートピッケルは原則ピックを後ろ向きに持って登山します。急斜面では前向きでも良いかもしれません。曲がったピッケルは、石突きを使用する際には、その形状からピックを前に向けて使用する事となります。

ダブルアックス：氷壁を登攀する時に、ピックの刺しやすい 2 本の曲がった短いピッケルを使用して登攀する方法を、**ダブルアックス登攀**と呼んでいます。

自分の登る山、登るルート、必要な道具を選択し冬山登山を安全に楽しんで下さい。冬山は軽いストックと軽いピッケルがお勧めです。

安全な登山の為の山用具：⑩ アイゼン

次はアイゼンの選び方の話です。アイゼンは、氷や、氷の様に固くなった雪の上を歩く為の、登山グツのクツ底に装着する金属製の爪のついた登山道具です。ドイツ語のシュタイクアイゼン（登る鉄）に

由来した名前とされています。英語やフランス語圏ではクランポンとされています。アイゼンは和製に作られた呼び名です。日本ではアイゼンで通用しますので、アイゼンと言う名前でも説明致します。

構成金属：アイゼンは、ニッケル鋼（鉄・ニッケル・炭素の合金）でできています。最近では、ステンレス合金や、チタン製、アルミ合金と言ったもので作られている物がありますが、氷への爪の刺さり方や耐久性では鉄製のニッケル鋼が優位ではないかと思えます。軽さではチタン製やアルミ合金が勝ります。

爪の本数：アイゼンは4本爪、6本爪、8本爪、10本爪、12本爪 があります。他にチェーンで作られた物があります。チェーンタイプや、4本爪、6本爪を一般的には軽アイゼンと言っています。軽アイゼンはあくまで軽アイゼンで、滑り止めの一時的のぎに、短距離の滑り止め目的で使用します。雪が少なかつたり、岩肌が露出している様な所には全く不向きです。一般的冬山登山では、12本爪、10本爪のアイゼンが一般的です。軽アイゼンは靴底を部分的に覆う為、つま先部分や踵部分にアイゼンが無く、不安定で通常の歩行ができません。10本爪や12本爪はクツ底全体がアイゼンで覆われる為、通常の歩行が可能です。アイゼンが必要な冬山に行く時には10本爪あるいは12本爪のアイゼンを用意してください。軽アイゼンは一般的には、夏の雪渓を渡る時や凍ってない固くない雪道等に使用します。

10本爪・12本爪アイゼンの装着：アイゼンの装着はストラップと言うベルトで登山グツに固定します。他に、ワンタッチ式、セミワンタッチ式と言う、登山グツのくぼみに金具で固定する方式があります。ワンタッチ式やセミワンタッチ式は登山グツに装着のくぼみが無いと装着できません。厳冬期登山靴はほぼ全て、全てのタイプのアイゼンが使用可能です。ストラップのみで固定するアイゼンはどんな登山靴でも装着可能です。アイゼンが必要な所でアイゼンが緩んだり、はずれたりすると、転落や滑落の危険がありますので、絶対に緩んだり、はずれたりしない様に装着する事が重要です。

アイゼンの安全な装着の為には、前もってアイゼンを装着する登山グツに、アイゼンを緩みの無い様に合わせて装着しておく必要があります。ワンタッチ式の前の金属金具は登山グツとの相性もあります。わからない時にはアイゼン購入時に自分の登山靴をお店に持って行き、合わせてもらうと良いかもしれません。注意点はもっと多く有りますが、複雑になるので今回は避けておきます。



前爪：氷の壁や凍った滝を登って行く時には前爪のあるアイゼンを使用します。クツより前に出た1本あるいは2本の爪と、クツのつま先の下にある2本の爪の合計3本あるいは4本の爪で登って行きます。クツの前の4本の爪で全体重を支えて登ります。急斜面を登るフロントポイントイングの要領です。氷に爪を刺して登って行くのではなく、氷の出っ張りに爪を乗せて登って行く要領です。出っ張りが無ければ爪を刺して登って行くこととなります。前爪は縦走用が平爪、氷壁用が縦爪になっています。

歩き方：アイゼンの爪がズボンやスパッツに当たらない様に歩く必要があります。爪が服に引っかかると転倒します。ほんの少しガニ股気味で、フロント荷重で歩行します。冬山歩行はいつもそうですが、膝は少し曲げ気味で腰を落として、足の親指の付け根当たりで歩く感覚です。踵に荷重がかかると滑っ

て転倒してします。緩斜面ではアイゼン全体を氷面や雪面に付けて、急斜面ではアイゼンの前の爪 4 本を使用して登山します。アイゼンに慣れて安全な冬山登山を楽しんで下さい。

安全な登山の為の山用具：⑪ストック(トレッキングポール)

今回はトレッキングポールの話です。いわゆるストックです。

形状からの分類：握る所がまっすぐな物を I 字型、T 字型になっている物を T 字型あるいはステッキ型と呼んでいます。I 字型と T 字型では使用方法が全く違います。T 字型は肘を伸ばした状態で丁度良い長さで使用します。I 字型は肘を約 90 度に曲げた状態の長さで使用します。登山に用いるトレッキングポールの大部分は I 字型です。

長さ調節の仕組みによる分類：

スクリューロック式は、シャフトを回して、シャフトの中に下部のシャフトを入れて長さを調節するタイプです。強く回し過ぎてロックが外れにくくなったり、ロック部分が壊



スクリューロック式

れたりすることがありますので固定する時に注意が必要です。

レバーロック式は、シャフトの外側にロック式のレバーがついているタイプです。発売当初はロック部分が弱く、使用中にトレッキングポールの長さが短くなってしまったりしていましたが、現在の販売されている製品はロックが強くなり問題は解決しています。長さの調節が容易にできる事が最大の特徴です。



レバーロック式

ピンロック式は、いわゆる折りたたみ式です。最近のテントのポールや雪山で使用

するプローブの様に、中に入っている固定用の紐を引いてロックして使用するタイプです。長さの調節ができないのが欠点ですが、軽量でアルパイン登山に良く用いられるタイプです。最近ではカーボン素材の製品もあり更に軽量化されています。



ピンロック式 ハイブリッド

ハイブリッドタイプは、ピンロック式の折りたたみタイプに、1ヶ所レバーロック式を装着し、長さを調節できるようにしたタイプです。軽量のピンロック式で長さが調節できるという利点があります。

素材による分類：

トレッキングポールは、カーボン素材の物、アルミ素材の物、があります。

カーボン素材は、最も軽い素材です。しかし横にした状態で岩に落としたりすると割れることもあります。軽さを重視するには適当ですが扱い方に注意する必要があります。

アルミ素材は、カーボン素材よりやや重くなります。ピンロック式の多くがアルミ素材です。伸ばしたまま横方向に力が加わると曲がる事があります。

収納時の長さによる選択：

低山の登山ではトレッキングポールを使用しない時は、多くの方がザックに装着して歩行している様です。低山では収納時の長さは、ザックに装着して歩行に支障のない長さとなります。

冬山やアルパイン登山では、落とす、触れる、引っかかる等のリスクを避けるために、トレッキングポールはザックの中に収納します。ですからザックの中に収納できる長さとなります。ザックから出る様なトレッキングポールはアルパイン登山では使用を避けなければなりません。

バスケット：トレッキングポールの石突きの上についている丸い部分をバスケットと呼びます。通常の登山では特に無くても良いのですが、トレッキングポールだけでは、柔らかい土や、穴の中に入ると深く入り込み、抜けなくなったり、転倒したりし易くなります。この為にあまり深く入らない様にバスケットが装着してあります。**通常の直径が4cm程度のバスケットと、新雪用のスノーバスケット**があります。

行く山やコース、季節により選択する必要があります。

石突きキャップ：石突きの部分に使用するゴム製のキャップです。土が中心の登山ルートでは石突きは必要ないので、自然保護を考えキャップを装着します。装着したキャップは外れない様に注意してください。雪山や岩山ではキャップを外して使用します。石突きで滑らない様な対応をします。

トレッキングポールの使い方：トレッキングポールの基本は1本です。2本を持って両手がふさがっていると、不意にバランスを崩した時、何かに掴まる事が出来ません。ですから1本を片手に持ち、必要に応じて持ち替える事が必要です。道幅の広い登山道で、転倒の危険が無く、両手にトレッキングポールを使用出来る時に限って2本使用する様にしてください。

2月の大山 元谷（急変する天候）



安全な登山の為の山用具：⑫グローブ（手袋）

登山にグローブは必要なアイテムです。グローブは用途により違う物を使用します。

ザイルを使う登攀の時には皮のグローブを使用します。ザイルで擦れて手が火傷状態になったり、擦り切れたりするので**指先が出ていない皮のグローブ**が必要です。

指先が出ているグローブもあります。沢登りや、登攀で、岩をつかんで登る時には便利ですが、ロープを頻回に使用する時には、皮膚が擦り切れる心配



があるので注意する必要があります。

冬山登山には防寒性のあるグローブが必要です。冬山では手袋を外すことが凍傷のリスクとなります。原則外さないで、全てのロープワークやアイゼンの装着ができなければなりません。この為に自分の手に合った外すことなく種々の操作ができるグローブを見つけておいて下さい。冬山用には、インナーグローブとアウターグローブの2重になったグローブと、1層の比較的厚いシングルグローブがあります。いずれのグローブも、グローブの中で指が動かすことができる事が重要です。指先が冷たくなった時にグローブの中で指を



動かして、凍傷にならない様に動かします。冬山グローブで最も暖かなグローブがミトングローブです。親指とその他の指が一袋になったグローブです。4本の指が一緒にあるので、通常の5本指よりは温かくなります。しかし、ザイル操作等は行い難くなりますので、操作に慣れておく必要があります。



5本指とミトンの間の3本指グローブがあります。親指と人差し指と残り3本が一袋になり、見た目が3本指グローブとなっています。ザイル操作はミトンより行い易くなります。

普通の手袋の上に重ねて使用する、薄い、防水、防寒の為にオーバーグローブがあります。多くの物がゴアテックス素材になっております。通常の手袋でも防水や防寒は十分かとは思いますが、濡れる可能性が高い時には使用の検討をしなければなりません。冬山で濡れたグローブで放置されると凍傷の危険性は高くなります。



防寒にウールのグローブは非常に有用です。最近あまり見ませんが、毛糸の繊維の大きなウールのグローブは、濡れた時に、しっかり絞ってすぐにまた使用することができる物もあります。冬山登山の時、防寒性が高いと手袋の中が汗で濡れる事がよくあります。これも凍傷のリスクになります。この回避には、薄いラテックス性やビニール製の手袋をして、その上から通常の手袋をすると、手袋の濡れの防止には役に立ちます。冬山では検討の余地があります。日本の冬山ではあまり使われませんがエベレス等の超高所登山ではダウン性のミトングローブを使用することが多い様です。



通常の登山（山歩き）では草、草木をつかんだり、岩をつかんだりする為に、手の怪我の予防に、薄い手袋をします。軍手でも、作業用の手袋でも構いませんが滑り難い物が良いかもしれません。最近では手袋のままスマートフォンの操作のできる手袋もある様です。冬は防寒性のあるグローブを選択した方が良い様思います。



ブラック

グローブを購入される時には、自分の登山に必要なグローブをお店の方と相談して購入されてください。



mont-bell

ダウンミトン

1108763

SUF.サンフワワー

①里山低山クラブ活動報告 ～ 菊池観音岳 （記録：池田清志）

1. 期日 令和2年8月25日(火)
2. 場所 観音岳(菊池市) 657m
3. 集合・解散 9:00 観音岳登山口(標高約487m)
国道387号線、立門から兵戸峠方面へ北上し、約3km
地点(ファミリーキャンプ場の看板)を左折し、約800m
でヘアピンカーブとなる所。
4. 参加者 (リーダー)戸上、(メンバー)中林、安場、田北、
前田、池田夫婦の合計7名



5. 行程 9:10 小さな溪流沿いにゆるやかにさかのぼる
石畳風の岩盤で歩きやすい。二俣を右へ。木道の渡し
で渡渉し、林の中を行くとやがて急登となる。ロープ
がかかっている所もあるが木や根に手をかけ、約20分
足らずで稜線に出る。9:55 すぐに頂上となる。山頂か
らは南の展望が開けており、正面に女鞍岳(623m)とゴ
ルフ場(菊池CC)、その先に菊池平野が広がる。



10:15 下りは南から北へと縦走する形で下るが途中、急下降の岩場があり、ロープが数本ある。慎重に下ればそれほど危険は感じない。

10:40 林道に出る。数m行くと“自然の家”の看板から再び樹林の中へ入る。下りがゆるくなると広葉樹林の中に1本の巨大なスギ、“天狗杉”が現れる。見事な枝ぶりと美しい赤茶色の幹と曲線に見とれ、皆、盛んにシャッターを切る。

11:10 ため池の横に着く。堤の上を渡り、広い樹林帯を行くと往路に通過した二俣に出る。往路を少し行くと登山口に到着。

全行程中、休憩や観察を含めて2時間20分、距離は約2.2km、全高低差188m。登山口で冷たく冷やした飲み物を頂き、昼食をとる。12:00 すぎに解散。

6. その他 すべて樹林帯の中で、汗はかくが風があり、快適であった。溪流沿いの植生、ヒノキなどの若い植林とそれに雑木が混じる明るい樹林帯、アカマツ混合林、若い広葉樹林帯などで全体に明るく気持ちのよい森林歩きができた。キノコ類も赤、白、黄橙、薄紅・・・と色鮮やかな姿がたくさん見られた。残暑の残る中、心地よい山歩きと自然観察の半日であった。



② 里山低山クラブ「吉無田官山」

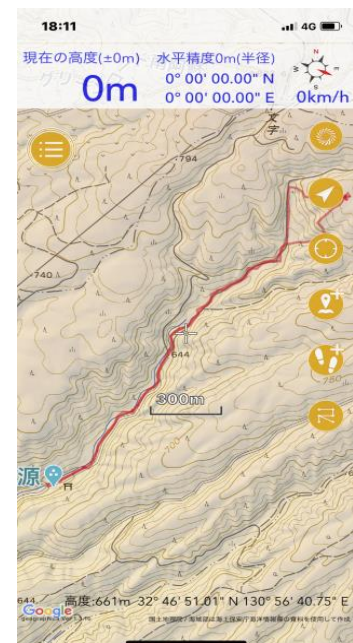
(記録／坂本雄二)

日時：2020(令和2)年9月8日(火)

参加者：池田、池田の、坂本、田北、戸上、中林、前田、安場、



猛烈な台風が過ぎ去った翌日、里山低山クラブの例会がある。参加者8名で10時過ぎに吉無田水源の水神社前を出発し、天神原川沿い歩き植物観察に臨む。花、木の実、植物の葉など様々な植物についての戸上さんの説明にうなずきながら、それぞれに気に入った写真を撮る。官山に200年前に植えられた杉は見事なものだった。杉林の中で昼食を取り、林道に戻り水神社前に13時40分に到着し、解散する。台風一過で涼しくなり、快適なトレッキングになる。



③日陰を求めて南外輪のブナと森を歩くハイキング (安場俊郎 記)

コロナ禍で、多くの支部行事が中止に追い込まれる中、3密を避けられる現地集合解散で近場の山を追加実施しようということで急遽設定した行事である。

参加者：中林、田北、橋本、中村、池田、多田、木下、前田、舛田、安場(10名)

2020年9月13日(日) 地蔵峠下駐車場 8時集合

大津公民館駐車場には橋本、中村、舛田さんが集まり中林支部長の車で地蔵峠まで上がり合流、2台の車をB残し駒返峠下へ残りの車は移動、登山準備の後、8時44分出発。

スキの穂が出始めた牧野道(舗装)を歩き、10分程で右に折れ沢を渡る。前日の雨にも拘わらず水量は少なく難なく登山道に入る。ここから暫くはキイチゴの棘のある小枝がうるさく道を塞ぐ。剪定ハサミで切り落としながら進む。やがて杉の植林地になり、緩い傾斜の道を行くと右からの林道に出合い休憩。その後、中松駅→駒返峠の標識の登山道に入り植林地の道は急坂になり、1時間ほど汗をかくと駒返峠の広場、鞍部に出る。ここから西へ、ブナやミズナラの森を歩く。気温は20℃程度で涼しい。南外輪の地蔵峠からこの駒返峠を経て清水峠までは森の中のコースで日差しが遮られ、夏の季節は気持ちのよい遊歩道になっている。1時間半ほど歩いて地震ヶ岩手前の鞍部で昼食休憩。12:15 太郎ヶ迫 3等三角点の先の水場の白看板を見て、後日のテント泊縦走を企てるためのために水場の下見に下るが案内人(安場)が角度を間違えたため発見に至らなかった。今回、雨が多かったせいか、様々なキノコが顔を出し、ナメコとそっくりなクリタケの幼生、テングタケ数種、いずれも食不適か毒キノコと思われる。唯一野生のシイタケあり収穫。その後、14:15 大矢野岳、14:58 大矢岳ではこのコース唯一、阿蘇五岳が望まれ、皆で記念撮影。マツムシソウが迎えてくれた。暫く休憩の後、20分の下り、15:22 地蔵峠到着。残置していた2台の車で駒返峠下の登山口まで移動して、15:30分頃 現地解散した。



④ 花を愛でる会：蓼原湿原観察会 (城戸邦晴 記)

9月9日 20日(日) 天候；晴

9：00 長者原駐車場集合、ビジターセンターを見学後、蓼原湿原の自然観察路を巡った。連休で多くの登山者や観光客の行き交う中、登山はせず、もっぱら野の花を観察した結果、実に多くの野草を観察することができた。可憐で美しいアケボノソウやシラヒゲソウは何箇所にも群れて咲いていたし、美しいマツムシソウも見ることができた。11：20頃までの約2時間で観察した花は33種類にのぼった。食事の



後、観察記録の読み合わせをおこない、皆さんで確認し合った。12：30 解散。

(観察できた花) アキノキリンソウ、リンドウ、アケボノソウ、アザミ、タチフウロ、ウド、コマツヨイグサ、オトギリソウ、キセルアザミ、クサフジ、ゲンノショウコ、サイヨウシャジン、サワギキョウ、サワヒヨドリ、シラヒゲソウ、タムラソウ、チダケサシ、ツクシフウロ、ツルニンジン、ハバヤマボクチ、ハンカイソウ、ヒゴタイ、ホクチアザミ、マツムシソウ、ヤマラッキョウ、ワレモコウ、レッドクローバー、コウゾリナ、キンミズヒキ、ミゾソバ、イタドリ、



アケボノソウ

参加者：中林暉幸、田北芳博、池田清志、橋本聖子、多田和子、伊藤松弘、前田セツ子、池田のり子、森尾奈美、門司恵美子、松尾重勝、木下洋子、城戸邦晴 (計13名)



ツクシフウロ



シラヒゲソウ



マツムシソウ

⑤令和2年度森林保全巡視登山(三の岳ルート登山道整備)

担当 田北芳博 副担当 山本直

期日 令和2年10月11日(日) 晴

場所 金峯山三の岳登山、三の岳登山ルート整備

参加者 18名

1班 CL田北芳博・SL松本博美・安場俊郎・中林暉幸・土井理・戸上貴雄

2班 CL山本直・SL石井文雄・加藤明・内布陽子・宮本恵・宮本洋子

3班 CL池田清志・SL三宅厚雄・城戸邦晴・松尾重勝・森尾奈美・門司恵美子

経費 各自、吉次峠(駐車場)に集合、ガソリン代は各自負担。登山保険に団体加入(山岳会負担)。

集合 吉次峠登山口9:00集合、駐車場は30台ほどの駐車スペースがあり、余裕があった。トイレも新しくきれいであった。

行程 登山開始(吉次峠)9:10→9:25 国有林入り口→12:10 三の岳観音→12:25 三の岳山頂
(昼食・集合写真撮影) 13:10 下山開始→14:30 吉次峠駐車場

概要 今回の森林巡視登山は吉次峠よりの三の岳登山ルート整備であり、併せて三の岳山頂を目指すものである。準備体操・3班に班編制のあと農道を15分歩いて三の岳の森林入り口より国有林に入る。このルートは三の岳神社まで続く北側の国有林の尾根道である。杉の造林地に入ると倒木が登山道の所々を遮っている。ノコ持参の数人がかりで切断して撤去した。杉林の中の倒木が終わると登山道にはみ出した木の枝や下草が多くなり、登山道が不明瞭であったり歩きにくかったりの状況である。



倒木をノコで切断し撤去作業

参加者の多数が剪定鋏、ノコ、鎌等を持参しており、登山道を塞ぐ下草を払い木の枝を剪定した。歩きにくい登山道の草木を撤去しながら登った後は歩行の障害物が少なくなり大変歩きやすくなった。

特にNTTドコモアンテナ跡地の横は通れないくらいの樹木の繁茂で、登山道を遮断する最大の難所であったのだが、登山道上の樹木を撤去し、見事に通過できるように払うことができた。



剪定鋏で登山道の枝を切る



下草・小枝等を切る

12時25分、三の岳山頂に到着した。参加者は登山道整備に熱心で余念がないので、三の岳登頂時間は予定より大きく遅れることとなった。

下山は往路をたどり、整備後の登山道を下山したが、登山道整備のおかげで、明瞭で歩きやすくなり、登りの半分の時間もかからず、容易に下山することができた。

また、登山道の各所には、ピンクのテープで目印をつけ、要所には登山道の案内表示を行った。思った以上に整備できており、今後利用者が増えて、この登山道の不明さがなくなれば幸いである。



登山道の案内表示と赤テープ

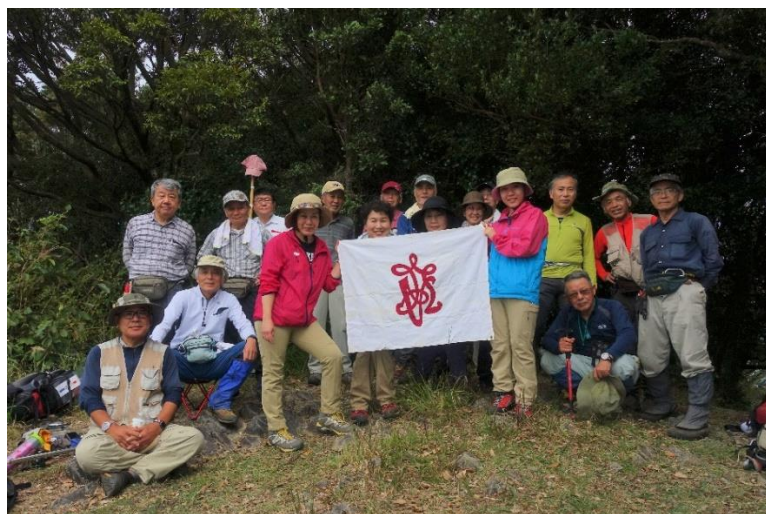


登山道の下草を払う



林道出会で休憩中

この三の岳ルート(吉次峠より)は明瞭な登山道として復活したので、今後は多数の登山者を期待している。普段から登山者がこの登山道の利用することが登山道維持には重要であろう。



三の岳山頂の集合写真

*右写真 最大の登山道の通行の障害であったNTTドコモ電波塔跡地横の除草と通過の様子。全員で横のはみ出している枝を切る。



⑥里山低山クラブ活動報告：宇土大岳縦走

記録/前田節子、写真/池田・田北

○実施日 2020(令2)年10月13日(火)

○場所 宇土半島 大岳(宇土市と宇城市不知火町の境、477m) & 雄岳(宇土市、348m)

○集合 宇土市網引町と宇城市不知火町大見の境界地点(県道58号、鎖ゲート登山口)/最終解散地

○参加者 池田、坂本、田北、戸上(L)、中林、前田 計6名

○行程等 晴天! 宇土の大岳は5~6年前、別の山の会で視察と本会で2回程主人と行きました。久しぶりの大岳で10:20集合。集合場所に着くまで『こんなに遠かったかなあ』と不安になりましたが、途中で中林支部長と出会い、後を付いて行き無事着きました。



皆さん早めに集まり10:20出発。戸上さんから草花や木の名前・説明を聞きながら西へ向かって舗装された農道をゆっくり歩き、10:50にいよいよ山道となる本来の大岳登山口に着く。竹藪の中とても山の中は荒れていました。暫く歩くと長い上り階段が続き、尾根道を歩き12:10に大岳山頂到着。そこには神風連六烈士自刃之跡・六烈士自刃辞世句の歌碑があり、池田先生が「これ



を読むと涙が出ますよ」と仰ってました。

昼食を取り、12:54さらに西方の雄岳(348m)へ向かう。みかん畑を歩き、とても穏やかな時間でした。

しかし雄岳もまた荒れていて、頂上の手前は急登でした。14:00雄岳に到着、三角点標柱と宇土高校山岳部の1996年登頂記念プレートを見て直ぐに下山。

14:50県道243号(郡浦網田線)に出て、ここに事前デポしておいた田北さんの車へ乗せていただいて、15:30頃には集合場所へ無事戻り解散。



今回も皆さんカメラで花や景色を次々と撮っていました。戸上さんからいつも草花の名前を教わるのですが忘れてしまいます、申し訳ありません。

山岳会のベテランの方達の中に入れていただいて本当に感謝しています。山歩きはキツく、辛い時もありますがその時は無になり、我武者羅になり、頂上に着いた時の素晴らしい景色がご褒美です。そのご褒美を見る為に頑張っていこうと思います。



⑦キャンプ同好会・くじゅう黒岳(前岳 1334m、高塚山 1587m)登山

中村 寛 記

2020年10月17日(土)、18日(日) 九重黒岳周回コース

参加者: 中林、石井、安場、中村 (4名)

期日 10月17日(土) 14時 大津駐車場～16時半 白水鉱泉白泉荘駐車場 (テント泊)

10月18日(日) 白水鉱泉登山口～前岳～高塚山～風穴～今水分岐～上峠分岐～黒嶽荘

行程: 白水鉱泉 → 白水分岐 → 仙人岩 → 前岳 → 上台ウツシ → 上台 → 高塚山 → 天狗岩分れ

6:56 7:35 8:40 9:08～19 9:56 12:08-12:46 13:01

→ 風穴 → 今水分岐 → 上峠分岐 → カツラノモト → 雨堤 → 黒嶽荘

13:37 14:12 15:15 15:54 1615 1636 (所要時間 10時間 40分)

初めてのキャンプ同好会は、白水鉱泉泊、黒岳登山である。テント持ち込み、また安場さんは、車中泊でそれぞれ1晩過ごした。キャンプ地は、水場とトイレが必要条件である。

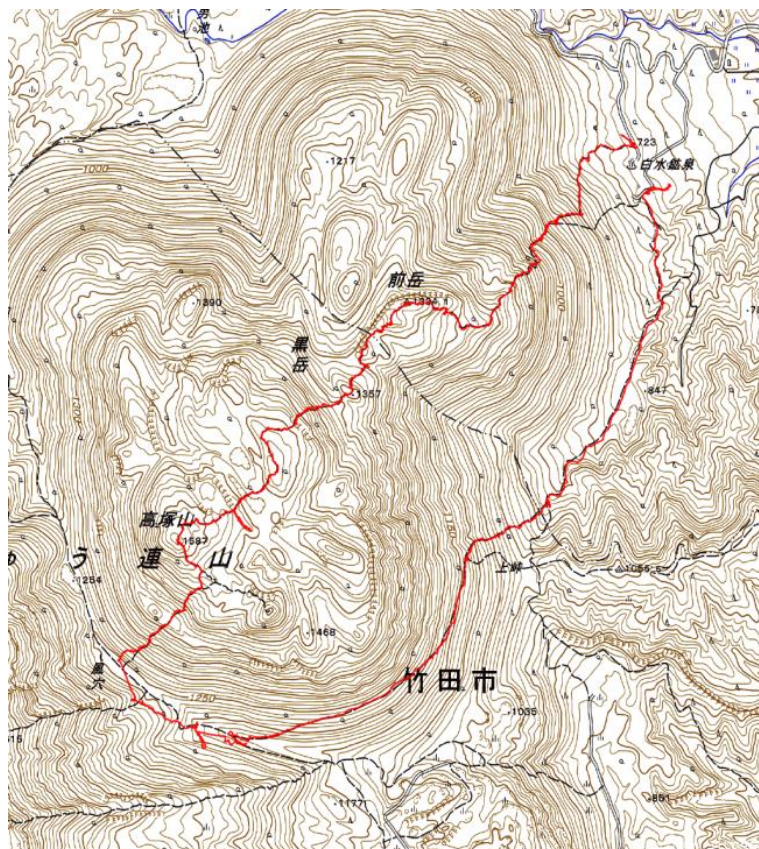
この水は、炭酸泉の為安場さんの助言で沸かして使用した。食事当番は、この中では一番若い私。会員の方に頂いた餃子と持ち込んだ鍋ものは、水炊き。LEDのランタンだけでは、周りは暗く、キャップライトを点けて、食事、酒を楽しんだ。夜はやはり冷えて、防寒の準備をしていたが、3時には寒さで目が覚めた。4時から朝食の支度をはじめ、7時前には、黒岳に向かって登山を開始した。太宰府から来たという一人の女性に不安だからと同行を求められ5人のパーティとなった。



紅葉のこの時期久住山や大船山に比べてマイナーな黒岳はとくにこのルートからの登山者は少ない。シヤクナゲの群生する急坂を登ると、やがて仙人岩の難所に着く。前岳の狭い頂上に着くと由布岳、万年山の展望が開ける。急坂を下り登り返すと、高塚山、ここで紅葉を眺めながら昼食を摂る。ここだけは、他のルートから登ってきた登山客で賑わっている。暫く天狗岩や大船山の紅葉を満喫して風穴へと下り、上峠を通る周回コースをとった。途中夏の集中豪雨で登山道が消えてガレ場を通ることになったが、無事にキャンプ同好会の催しを終えることができた。



黒岳登山口での4人、朝は、まだ寒かった(上左) 高塚山から紅葉の天狗岩を望む。ここだけは、大勢の登山客で賑わっていた(上右) 仙人岩に登る(下)



⑧秋の登山教室【雲仙・普賢岳】報告

担当 池田清志

1. 期日：令和2年10月25日(日)
2. 場所：長崎県雲仙岳(妙見岳～国見岳～普賢岳の周回コース)
3. 集合・解散：A班：熊本港駐車場(九商フェリー) 12名
B班：長洲フェリー乗り場駐車場(有明フェリー) 7名
集合時間：各班とも6時15分 (6:30乗船手続き
7:00出港)
解散時間：A班 フェリー17:25到着後、解散
B班 フェリー16:40到着後、解散
4. 参加費：A班 フェリー代(2台往復) 28500円
仁田峠道路協力金(2台) 200円
ガソリン代(2台) 2500円
総合計 31500円 1人当たり 2600円



仁田峠から妙見岳へ(後方は野岳)

B班 フェリー代(2台往復) 13500円
仁田峠道路協力金(2台) 200円
ガソリン代(2台) 2500円
総合計 16200円 1人当たり 2400円とし、
余剰金 600円は支部の会計へ



妙見駅展望所

5. 日程・コース

AB班とも7:00出港(A班は60分後、B班は45分後に上陸)。

A班は8:00上陸後、コンビニで弁当など購入し出発、40分足らずで仁田峠駐車場着。駐車場は半分程度の印象。もし駐車場が混み合っていて駐車できない時はどうするか、という心配は杞憂だった。B班はすでに到着して準備中であった。ここで前日から単独で宿泊していた安場さんが合流、総人数はAB班合わせて20名となった。

8:55 人員確認、班編成、松本博美さんの指揮で全員軽くストレッチ。行動は基本的に3班で動くが、コンディションや体力により①ロープウェイ利用、②国見岳往復のカット、③ショートコース(鬼人谷口～紅葉茶屋～普賢岳)の選択は個人の判断、結果的にロープウェイ利用は2名、②と③のショートコースは計3名となり、池田が帯同して、実質的に4班編成の形になった。



紅葉の普賢岳と平成新山

9:05 仁田峠駐車場出発、9:10 登山口からいきなり急登、ゆっくり登り45分でロープウェイ駅に到着。小休止の後、班のローテーションで2班3班1班の順で出発。

10:20 妙見岳神社で今日の安全を祈願(妙見岳は閉鎖中)。10:50 国見岳分岐、下から国見岳を見上げると登山者の列ができていて、鎖のある岩場では渋滞の様子がうかがえた。

11:05 全員合流する予定の鬼人谷口、ここで早くも先頭に行く2班は11:15に風穴コースへ向けて出発。遅れて来た3班と1班は11:28風穴コースへ出発、4班は11:30紅葉茶屋から普賢岳へと出発。

紅葉茶屋～普賢岳の間は急坂で大きな段差もある。かつ、登り下りともに最も人が多い時間帯で交錯や追い抜きのたびに停止を余儀なくされた。



普賢岳頂上(後方は妙見岳)

12:30 普賢岳山頂、2班はすでに山頂での撮影を終えて、山頂下に降り昼食をとる。山頂は人が多くて、写真を2～3回撮るのが精一杯。4班も2班に遅れて昼食。1班・3班はさらに遅れ、13:00頃から昼食となる。4班は1・2・3班に先行して13:10に下山開始。

13:45頃には紅葉茶屋で1・2・3班が追いつく。4班を先頭に紅葉茶屋を出発。14:10～14:20アザミ谷で小休止。仁田峠までの最後の1ピッチは班を解体して自由に自分のペースで歩くことにする。14:45仁田峠駅、14:50仁田峠駐車場着。ここで集合写真撮影後、終了式、中林支部長の挨拶の後、解散となる。



普賢岳山頂にて

15:00仁田峠駐車場をAB班ともに出発。A班は15:40島原港、16:25フェリー出港、17:25熊本港、17:30駐車場にて解散。B班は15:30頃多比良港、16:55出港で17:40長洲港到着後解散。

穏やかな快晴の一日で、紅葉が見ごろの雲仙を充分楽しめた山歩きであった。

(報告 池田清志)

仁田峠にて



⑨里山低山クラブ活動報告 ～ 芦北鶴掛山

記録・写真/戸上

○実施日 2020(令2)年11月10日(火)

○場 所 葦北郡芦北町伏木氏(ふしき)集落 ～ 鶴掛山(462m) 往復

○集 合 道の駅芦北デコポン

○参加者 池田清志、池田のり子、田北、戸上(L)、中林、前田 (計6名)

○行程等

9:00 デコポン集合 ～ 移動・登山口の伏木氏集落の車道路肩に駐車 ～ 9:30 出発 ～

12:10 山頂着 ～ 昼食 ～ 12:35 山頂発 ～ 13:50 登山口到着 解散

熊本からはやや遠方になりますが、コロナの関係で現地集合解散形式を採りました。

登山口から山頂までずっと傾斜のない林道を歩き、談笑しながらのゆっくり散策でした。

以前歩いた際に中腹に居たヤギの姿を見ることが出来ず、少し寂しい思いをしました。

下山途中では、中林支部長がムベの実がたくさん生っているのをあざとく見付け、阿修羅の如く棒を振り回して格闘するなど、晩秋の穏やかな山行でした。



右奥に見えるのは笠山(一等三角点)

⑩トレーニング同好会・俵山

1.日付 令和2年11月22日(日)

2.場所 俵山(1095m)

3.参加者(敬称略) 中林 坂本 田北 江島 山本 岩下
吉本 末永(飛入り) 8名

4.日程 8:30 萌の里集合・出発 8:37→9:50 農道出会
→10:30 防火帯上→11:30 俵山山頂(昼食)

11:50→14:00 萌の里

5.概要

今年2回目の俵山トレーニングである。

頂上の標識が新しくなっていた。

下りも前回と同じ西側ルートとする。周囲の草が払われ三角点の場所が分かりやすくなっているとのことで下山前に見に行く。



標識が新しい俵山頂上

1時間ほど登山道を下り、農道に出て、萌の里へ向かう。途中ショートカットしたつもりであったが、ほとんど人が通らない小径のため茅等に覆われてしまっていて、ススキの中のプチ藪こきとなっていた。 (山本 記)



俵山三等三角点



下山後 萌の里にて

⑪ トレーニング同好会：釈迦院 3333 段の階段・大行寺山

- 1.日付 令和2年12月5日(土)
- 2.場所 釈迦院 3333 段の階段 (大行寺山 957m)
- 3.参加者(敬称略) 中林 坂本 吉本 山本 (4名)
- 4.日程 9:00→10:20 石段頂上→10:50 寺→11:15 山頂→11:30 (昼食)
12:00 下山開始→13:00 登山口
- 5.概要 今年2回目の釈迦院 3300 段トレーニングである。少し紅葉が残る階段をひたすら登る。各人のペースで登るが、軽装の高校生にどんどん追い抜かれる。
石段頂上で集合して釈迦院へ。寺にお参りして、寺の裏から大行寺山へ向かうが枯れた竹が横たわりずいぶん荒れている。山頂から下り、石段頂上そばで昼食。下りは1時間ほどである。翌日の筋肉痛がひどい。 (山本 記)

⑫ 里山低山クラブ「砥用鎌倉山・手蝶山縦走」

記録/戸上

2020(令2).12.08(火) 鎌倉山(371m)～手蝶山(390m) <いずれも美里町と甲佐町の境界稜線上>
参加者7名 ⇨ 池田清志、池田のり子、坂本、戸上、中林、前田、安場

「道の駅 佐俣の湯」駐車場に集合し(8:20)、四台に分乗して打越トンネルへ移動した。2台をここへデポし、残り2台で鎌倉山登山口(上中(じょうちゅう)集落)へと、さらに移動した。登山口を出発し(8:57)、住宅に挟まれた緩やかな坂道を進み、作業林道に出ていよいよ山道へ入ったが、少し歩いた先のトラバース地点が危険と判断し、岩が露出しているものの、比較的手掛かり・足掛かりの多い急斜面を直登して稜線へ出た。

250mほど西北西へ進むと、あっけなく鎌倉山山頂に着いたが(9:57)、参加者の中には山頂であることに気付かず、単なる通過地点で休憩しているんだと勘違いするほど、何の変哲もない植林地の山頂だった。

ここから、来た道に戻る格好で尾根縦走が始まった途端に、私(戸上)の登山靴の底が剥がれるというハプニングが発生したものの、支部長の持参されていた紐で靴全体を縛って固定していただき、結果的に何とか最後まで無事歩き通すことが出来た。

薄い藪漕ぎやアップダウンを繰り返しながらも、安場さんに安心してトップをお任せすることが出来たため、ハナミョウガの赤い実、コショウノキの冬芽、コマユミの紅葉、立派なシイタケの採取、エンコウカエデの黄葉、枝に付いたままのヤマコウバシの枯葉などを楽しみながら、結構楽しくワイワイ言いながらの山行となった。

最後の手蝶山の急坂では、さすがに皆無言となって必死に登り上って山頂へ到達し(13:43)、下山時は安場さんに固定していただいたロープを伝うなどして事故・怪我もなく、車をデポしていた打越トンネルへと辿り着いた(14:35)。

鎌倉山登山口で最終解散した(14:55)が、ほぼ全員が『手蝶山だけは二度と登りたくない』といった顔をしていたように思う。



上・鎌倉山 下・手蝶山 (背景の雰囲気似ている！)



購入後三回目の使用なのに☹、安物？



さすがロープ Work ばっちりのベテランです！

① 高瀬ダムから裏銀座・雲ノ平そして折立へ縦走

坂本 雄二

2019年9月10日～9月15日

S山の会のメンバー6名と会員外3名の合計9名で、会員のHさんが主宰するN.H倶楽部の行事として、高瀬ダムから烏帽子岳・野口五郎岳・水晶岳・鷲羽岳・雲ノ平を経て折立へと縦走する。

9月10日(火)：1日目 晴れ 熊本駅：7時40分集合

8:03発	11:11	11:29	12:36	13:00	15:03	15:20
熊本駅	====	新神戸駅	====	名古屋駅	====	松本駅
	さくら542号		ひかり466号		しなの13号	
信濃大町駅16:18着・・・(徒歩10分)・・・丸勝旅館(宿泊)						

天候もよく、さあ今からだど気持ちが高揚する。早速、電車の中で、ビール等を購入し、ほろ酔い加減で旅に入る。名古屋駅で駅弁等を買う。宿泊地の信濃大町駅に午後4時過ぎに着く。丸勝旅館に荷物を置き、次の日の昼食を購入するため、街に出る。夕食では酒も出て次の日からの山行等の話で盛り上がる。

9月11日(水)：2日目 雨

6:00発	タクシー	6:40	7:28	13:37
丸勝旅館	====	高瀬ダム	ブナ立尾根登山口
		1,270m		2,551m
		14:35	15:30	
		烏帽子岳
		2,626m		2,551m
				烏帽子小屋(宿泊)

旅館からタクシーで高瀬ダムまで向かう。ダムでタクシーを下車すると、ここからいよいよ登山が始まる。天候は余りよくなく、どんよりとした湖面を眺めながら歩く。ダムの先のトンネルを抜けて不動沢のつり橋を渡ると濁沢のキャンプ場だ。この広場で恒例のラジオ体操の後、再出発する。

小雨の中、濁沢を渡ってブナ立尾根登山道に入る。ブナ立尾根には要所に番号が振ってある。12番から始まりジグザグの急登を進んで行



く。色々な山野草・花が見られた。適宜休憩を入れながら、ようやく疲れた足取りで0番の烏帽子小屋に到着する。ダムから小屋まで約1300mの急登であった。小屋に荷物を置いて、

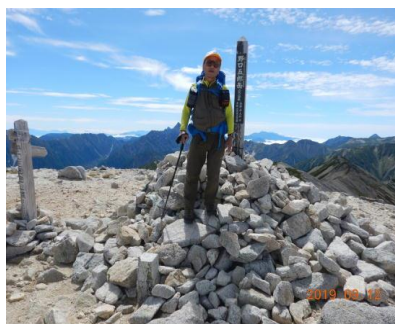
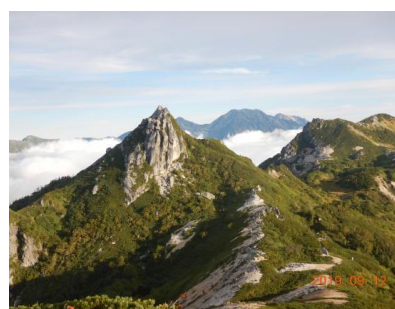


有志で烏帽子岳に向かう。風雨が強く霧で、烏帽子岳の概要はよくわからない。鎖を頼りに烏帽子岳の岩峰を登り山頂に到着し、ガスった中、写真撮影をする。帰りは激しい風雨に打たれながらようやく烏帽子小屋に着く。雨合羽やズボン等を乾燥室で乾かす。夕食後、談話室で酒を飲みながら、「山旅映像サロン」を主宰している登山ガイドの千田さんと知り合い、山や花の話で盛り上がる。

9月12日(木)：3日目 晴れ

6:00発		11:32	11:42	
烏帽子小屋	・・・三ツ岳(北峰・西峰)	・・・野口五郎岳	・・・真砂岳	・・・
2,551m	2,845m	2,924m	2,862m	
13:58	15:10	16:00	16:15	16:37
・・・東沢乗越	・・・水晶小屋	・・・水晶岳	・・・水晶小屋(宿泊)	
2,734m	2,890m	2,986m		

朝5時20分ごろ、天気が良くなっていたので、空身で、ニセ烏帽子岳まで行き、昨日登った烏帽子岳を見る。昨日はガスって見えなかったが、雲海を従えた天を突くような烏帽子岳の雄姿が見られた。小屋まで引き返し、テント場の脇を抜け、三ツ岳を目指す。途中、花崗岩が砕けた白い砂状の登山道の脇に、コマクサをはじめ色々な花々が見られた。三ツ岳はその名の通り3つのピークをもつ。頂上付近は花崗岩の面白い形や色の岩が多い。展望もよくさらに稜線を進む。やがて左手に野口五郎小屋が見えてくる。さらに進むとなだらかな大展望の野口五郎岳山頂になる。槍ヶ岳をはじめ360度の山岳風景が素晴らしい。30分ほど進み、真砂岳を巻きながら下ると竹村新道への分岐になる。遠くに水晶小屋が見えるが、急登であり、赤茶けた痩せ尾根で崩壊したように見え、どこを登るんだろうかと思われる。途中、ハイマツの中に岩が転がった登山道にオコジョが現れる。チョロチョロとした、すばしこい動きでどうにか写真に収めることができた。稜線歩きで、時折大岩で歩きにくい場所もある。東沢乗越からは、登



り返しになる。痩せ尾根や赤茶けてザラザラした崩れやすい斜面に注意して上る。途中、水晶小屋の女性の従業員が崩れかけた登山道の補修をしていた。やがて、赤岳直下の水晶小屋に到着する。



水晶小屋に荷物を置いて、疲れていない6名で、水晶岳を目指す。尾根道は岩稜や短い梯子も混じるが、全体的にゆるやかで小さい登り下りを繰り返して水晶岳山頂に着く。展望は素晴らしく、北へ赤牛岳、さらに黒部湖も眺められる。写真撮影の後、ここから来た道を引き返し水晶小屋に戻る。

9月13日(金)：4日目 晴れのち曇り

6：43発	7：35	8：50	9：20	10：50
水晶小屋・・・ワリモ北分岐・・・	鷲羽岳・・・	三俣山荘・・・		
2, 890m	2, 841m	2, 924m	2, 550m	
11：40	13：50	14：15	14：35	
・黒部川源流地・・・	・祖父岳分岐・・・	・祖父岳・・・	・祖父岳分岐・・・	
2, 430m	2, 680m	2, 825m		
15：13	15：40			
・スイス庭園・・・	・ギリシャ庭園・・・	・雲ノ平山荘 (宿泊)		
	2, 576m			

小屋の写真等を撮り、6時40分過ぎ、鷲羽岳を目指し出発する。登山道は起伏のある岩稜地帯でワリモ岳の山頂をわずかに巻く。ロープもあるが慎重に通過する。大きく下って鷲羽岳へ上り返す。鷲羽岳山頂の眺めは素晴らしい。火口湖である鷲羽池を手前下に臨み、先の方の粗くザラついた山肌が印象深い。さらに、その先に天を衝く槍ヶ岳が素晴らしい雄姿を見せる。しばらく周りの景色を堪能し、写真撮影等の後、眼下に見える赤屋根の三俣山荘までの、急坂のザレた岩礫の斜面道を慎重に下る。ハイマツに囲まれた三俣山荘で休憩後、雲ノ平方面へ進む。小さな草原が続く、緩やかな登山道を北西方面



に下っていく。30分位経つと、いくつかの沢が交わった黒部川源流地に着く。「黒部川水源地標」と記された赤御影石の標識がある。ここから、沢を渡り祖父岳方面に登り返す。約2時間で祖父岳分岐に着く。ここで待機する人と別れて、疲れて



いない4名で祖父岳へ登る。山頂に着くころ、ガスってくる。祖父岳山頂では、一人で登山に来ていた山荘の若い女性スタッフと写真撮影をする。分岐まで下り、休んでいた人と合流する。ガスった中の雲

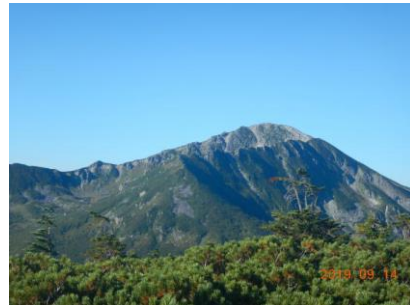


ノ平の木道を、スイス庭園やギリシャ庭園の池塘を見ながら、雲ノ平山荘に向かう。

9月14日(土)：5日目 晴れ

7：05発	7：30	7：45	8：05
雲ノ平山荘・・・	・祖母岳・・・	・アルプス庭園・・・	・奥日本庭園・・・
2, 576m	2, 560m		

8:32	11:00	～	11:40
アラスカ庭園・・・薬師沢出合・・・薬師沢小屋・・・佐俣出合・・・			
13:00	14:56		
・・・渡渉点・・・太郎平小屋（宿泊）			
1,920m	約2,300m		



朝から快晴になった。皆で、朝食後、6時前から、昨日ガスってよく見えなかった雲の平の庭園を空身で見に行く。ギリシャ庭園からは、南東に三俣蓮華岳、南に秀麗な黒部五郎岳に朝日が当たって風景が素晴らしい。いつか黒部五郎岳に登ってみたいと思う。

洋風木造の山荘の前で写真撮影の後、7時5分に出発する。木道を進み、丘のように見える祖母岳に向かう。祖母岳を後にし、雄大な薬師岳を北に、南に黒部五郎岳望みながら、美しい風景の庭園の木道を進む。木道が終わると、滑りやすく、大きな岩がゴロゴロした長い急坂になる。周りの樹木に掴まりながら、足をくじかないように慎重に下っていく。下から登ってくる登山者は、皆汗だくで喘いでいる。私は薬師沢小屋でパンを買い、薬師沢出合の河原で昼食をとる。透明な水の青さとつり橋、小屋周りの風景が非常に良い。休憩後、吊り橋を渡り、小屋を過ぎると、しばらくで予想外の木道になり、ほっとする。いくつかの薬師沢の渡渉点を過ぎて登って行く。薬師沢小屋から約3時間で、ガスった中に、やっと太郎平小屋がちらちら見えてくる。



9月15日(日)：6日目 晴れ

5:05発	9:47	タクシー				
太郎平小屋・・・折立====満天の湯（入浴・昼食）====不二越駅====						
約2300m	1350m					
	14:17発	14:39	14:57	17:31	18:08	21:41着
電鉄富山駅・・・富山駅====金沢駅====新大阪駅====熊本駅						
		つるぎ719号	サンダーバード30号	さくら569号		

朝5時過ぎに太郎平小屋を出る。南西の空に月が見える。薄紫色の空にでた月と湖と樹木の組み合わせが、何とも言えない風景を、醸し出す。広い登山道は歩きやすい。木道や石畳もある整備された登山道であり、ゆっくり下っていく。1時間ほど下った五光岩ベンチの場所で朝食をとる。小屋から約4時間半で、愛知大学の遭難慰霊碑の塔が見える。巨大なミズナラの個所を抜けると開けた折立に到着。トイレ等休憩をする。登山の疲れを癒す。その後、予約した大型タクシーで富山市の満天の湯に向かい、入浴後昼食をとる。電車、



新幹線を乗り継いで、午後9時41分熊本駅に着き、解散する。
(坂本 記)



② 傾山～祖母山縦走

中村 寛 記

2020年10月13日(火)～16日(金)

参加者 石井、安場、中村 の3人

今回 傾山から祖母山まで縦走しました。通常この馬蹄形をしたコースは、祖母山が、出発点になりますが、それは、登りが、少ないからです。今回は、逆を歩きました。歩いた総距離は、約28キロ、長く厳しい登山になりましたが、思い出に残る山行になりました。

10月13日(火) 17時豊栄鉦山跡、九折登山口に着。ここでテント泊。安場さんは、車中泊。

10月14日(水) 6時15分、出発～7時30分、林道出合三ツ尾登山口着～9時35分、三ツ尾分岐～14時30分、五葉塚～15時15分、傾山(1605m)～17時半、九折越し小屋

登山口は、標高約 400m、標高差は、約 1200m ある。この日は一気に登りその後九折小屋まで歩く計画である。朝 6 時過ぎ、青い橋を渡り暫くすると落差約 70m ある観音滝が見える。確か日本の滝 300 選だったと思う。交通アクセスが余りよくなく、楽しめるのは登山者だけのようである。その滝の上を歩いて渡るが、ここで水を補給し、下を覗かずに先に進む。以前事故があったらしく危険の看板がある。暫くは単調な登りが続くが、途中から坊主尾根コースをとる。ここは、岩峰の急登コースで三ツ坊主、吉作落とし、二ツ坊主と岩登りが、何箇所も続く難所。補助となるザイルや鎖、ハシゴが、余りなく慎重に登る。前を行く 2 人の掴んだ岩、足を置いた岩を見て三点確保でザイルない岩場を何度も登った。背負った 60ℓ のザックは、3 日分の食料もある為重たい。この岩場だけで 2 時間かかった。やっとなだ



傾山頂上は大きな岩の固まりで、もろい祖母山の岩質と違っていた。らかな五葉塚に着いて緊張がとれ一息入れた。この後、前傾、本傾、後傾が、控えているが距離は短い。しかし最後の岩場は、怖くて渡れず初めて石井さんに同行してもらい迂回をした。この急登コースは、熟練者のコース、また 60ℓ のザックを担いで、危険。それに補助となるザイル等が、余りなく、登るなら祖母山からはじめて九折越しの山小屋にザックをデポして後傾、本傾が、いいと思う。傾山頂上は、以外と広く大きな岩が、ゴロゴロしている。眺望は素晴らしい。3 日分の食料を入れたザックは重たかったが、もう体も慣れていて造作なく担げるようになっていた。後傾から 1 時間程尾根を歩いて九折越しに着いた頃には薄暗くなっていた。ここは、ちょっとした広場でテントも張れるが、今日は、誰もいない。キャップライトを点けて水場まで 10 分程下って 5ℓ 程の水を補給した。山小屋は、九折越しからすぐそばにある。誰もおらず私たち 3 人だけ、すれ違った唯一の登山者は、祖母山から九折越しの間でテント泊したと言っていた。彼は祖母山からの縦走だった。食事は安場さんが、作りこの日は約 12 時間の行程に皆疲れていてお酒もほどほどに早めに寝袋に入った。

10 月 15 日 (木) 6 時 45 分 出発～8 時 05 分、笠松山 (1522m) ～本谷山 (1643m) ～尾平越、食事～14 時 45 分、古祖母山～15 時 55 分、障子岳～18 時 30 分祖母山～19 時祖母山 9 合目小屋着

この日は祖母山までの尾根歩きが続く。昨日の緊張感が取れて気持ちは軽い。古祖母山や祖母山、大障子岩が遠く屏風のように見える。あそこまで今日中に行けるだろうか？歩いてても歩いててもまだ遠くに見える。ただこの尾根は、登山道が、確定していて道に迷うことはない。笠松山、本谷山を経由して尾平越で少し長めの休憩をとる。この後計 3 名の登山者とすれ違う。紅葉には少し早いようだった。ここであった一人の登山者は、私たちと暫く談笑し、尾平越トンネル側に降りて行った。そこにも登山口があり、日帰りで古祖母山に登れる。古祖母山



九折越の山小屋、早朝出発前の二人

山頂前にハシゴがあるが、少し緊張する程度で頂上に出る。休憩することなく先を急ぐ。まだ障子岳が残っており目指す祖母山はまだ先にある。何度かきた障子岳頂上からの眺めは、いつも素晴らしい。以前と同じ場所で祖母山をバックに写真を撮る。ここからは、切り立った断崖の天狗岩の先に祖母山が見える。一息ついて天狗についた頃は5時半、薄暗くなりキャップライトを点けて祖母山に登り始めた。秋は日が暮れるのが早い。頂上直下の急登にかけられた幾つものハシゴを慎重に登る。傾山に比べて岩がもろい。足場の石がゴロゴロして動くので慎重になる。もう日が暮れて真っ暗になった。祖母山着は、6時半。達成感より今は無事に終えたことの安堵感が大きい。5分も居ただろうか？暗い中九合目小屋まで降りていった。先客の若い二人がいた。初めてだけど山男は気が合う。ここには、ストーブがあり暖も取れるしお湯も沸かせる。ガスを使い切った私たちには、ありがたかった。マキで火をおこすのに時間がかかったがここでも安場さんに食事は、お世話になった。ここでは寒さに朝、目が覚めることなくゆっくりと眠れた。



九折越し縦走路見た障子岳、祖母山。この日はそこまで歩かなければならない

10月16日(金)6時15分出発～7時40分宮原～10時30分奥岳川源流の碑～尾平鉦山着、～九折登山口着

最終日は、ストーブでまきを焚くのに朝3時から起きてお湯を沸かした。今日も食事は、安場さんが作った。天気は崩れ気味。6時過ぎには山小屋を出た。

宮原までは、馬の背と言われる岩場の難所が続くが、ガスがでて眺望はない。慎重に踏破するが、小雨になり雨具を着るがどちらともつかない微妙な雨だった。このまま難無く尾平鉦山まで降りたが、この川は、昨年夏、沢登りできた所だった。ずっと緊張していたがここに来てやっと安心できた。若い頃一度縦走を試みて途中であきらめたが、記憶にほとんどなかった。その時細い筒から流れる水を汲みに行ったがそれが、九折越しの水場だったか、それもわからない。コロナ禍のなかネットでは、山は、逃げないという言葉多くのってる。だけどチャンスは、逃げる。今回ベテランの石井さん、安場さんに同行してもらい有り難かった。二人が居なかったら三ツ尾の岩峰ルートは、登れなかった。いつまでも思い出残る山行になりました。

◎ 事務局より

《.新入会友紹介》 (敬称略)

松尾重勝 (玉名郡長洲町)

末永保則 (合志市豊岡)